

E-Post SMTP Server (x64) 導入時の

ライセンス算定と構成例

E-Post SMTP Server (x64) シリーズを新規導入する場合、用途は3つに大別されます。想定環境によって構成要件は変わり、必要なライセンス数も異なります。必要ライセンス数を確認するためには、導入予定の想定環境がどのケースに該当するかを確認してください。想定環境および構成要件は、以下の表に大別されます。

なお、本資料でいう「アカウント数」とは、E-Post Account Manager 上に登録されるアカウント、エイリアス、メーリングリストを含めたライセンス対象数を指します。必要ライセンス数を考えるときのアカウントの基本はあくまで送信元アカウントが基本です。構成要件によっては送信先アカウントも対象となります。場合によっては内側（イントラ側）メールサーバで管理するアカウントを考慮する必要があります。

「導入する E-Post SMTP Server (x64) が、どの方向へメールを送信し中継するのか？」の問いで大きく以下の3つに分類されます。**【1】【2】【3】**のケースでの構成を確認し、必要ライセンス数の算定を確認したい場合は、表内右端のリンク先をご覧ください。本資料では説明上、単純中継を「広義のリレー」とみなし、上位 SMTP への認証付き中継を「認証付きリレー」と区別しています。**【1】**と**【3】**はいずれも外部へのメール送信を行う構成なので混同しやすいですが、E-Post SMTP Server (x64) が外部の送信先 SMTP にただ送るだけなのか、認証を行い上位 SMTP から先の送信を委任するかで分けてください。**【1】【2】【3】**に分類した内容はそれぞれ3～4つの項目に分かれます。リンク先をご覧ください。

【1】	社内システム・複合機・Web に設置した送信フォームなどから相手先へ送信するのみ。外部からの受信は行われず一方向。配送・通知専用。いわゆる「送信専用 SMTP」もしくは広義の「リレー」用 SMTP とも呼ばれているもの。	【1】 送信専用 SMTP サーバ（一方向・配送のみ）
【2】	イントラ側（内側）に別のメールサーバがあり、インバウンド（外部→内部）、アウトバウンド（内部→外部）の両方向を通す。インバウンドとアウトバウンドの両方があるのがゲートウェイ。メールボックスはイントラ側（内側）のサーバが持つ。	【2】 SMTP ゲートウェイ（双方向・インバウンド+ アウトバウンド）
【3】	E-Post SMTP Server がサーバとして動作すると同時に、上位 SMTP に対しては SMTP クライアントにもなり、M365 / Gmail / プロバイダ等の SMTP に認証してログインし、その後の配送処理を委任する。「認証付き SMTP リレー」と呼ばれるもの。M365 / Gmail 等が導入したモダン認証（先進認証）の認証付き SMTP リレーは、この中に含まれる。 構成図で表現した際、E-Post から相手 SMTP へ、さらにその先へと矢印がもう一段伸びるのが特徴。この資料では認証付き SMTP リレーと分類。	【3】 認証付き SMTP リレー（認証付きフォワード） ※E-Post シリーズの資料では認証付き SMTP リレーのことを認証付きフォワードとも呼称しています。

旧来の Windows Server に付属していた IIS の SMTP 機能では比較的シンプルな設定でメール送信・中継を構成できました。E-Post SMTP Server (x64) シリーズは、中継ルールを厳格化した本格的な SMTP サ

サーバ・メールシステムとして運用されることを想定、開発されています。IIS の SMTP 機能の代替として考える場合、E-Post SMTP Server (x64) シリーズを導入する際は設計思想が異なることを留意する必要があります。

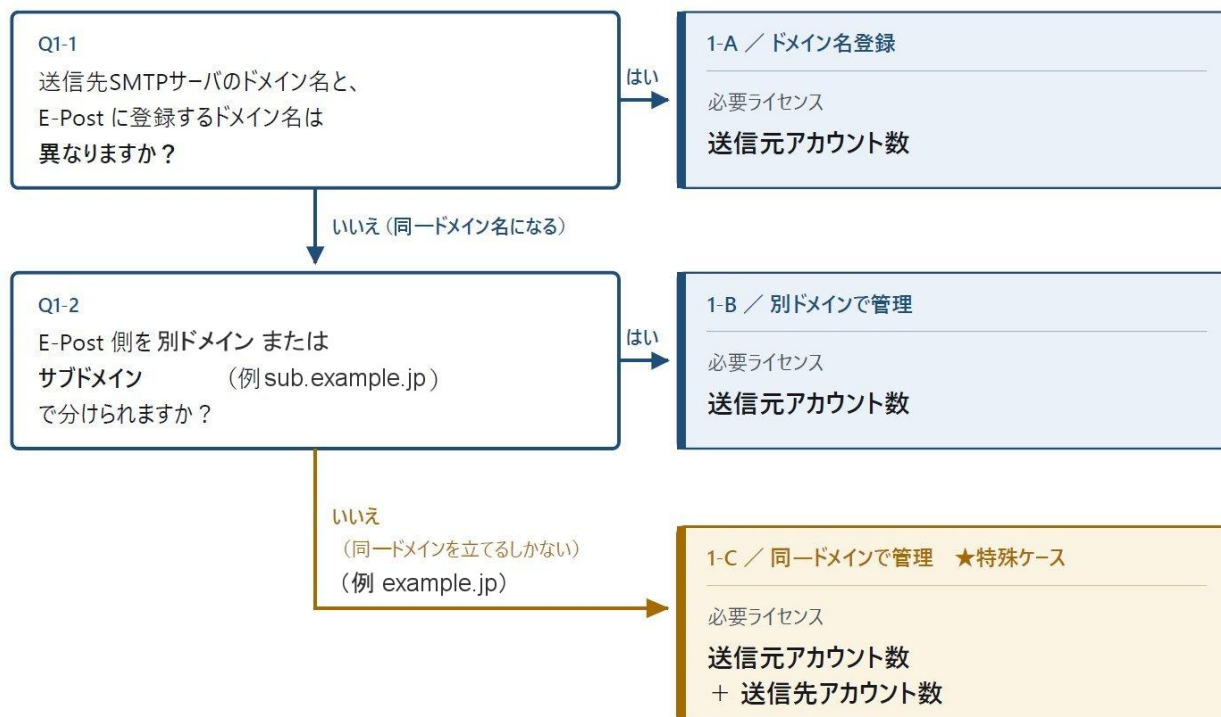
【1】送信専用 SMTP サーバ（一方向・配送のみ）

送信専用 SMTP サーバ（一方向・配送のみ）、いわゆる広義の“リレー”用 SMTP としての利用です。基本は Account Manager 内に登録する送信元アカウント総数がライセンスを満たしていれば問題ありません。【1】A のケースも【1】B のケースも、仮に送信元アカウント数が 1 つの場合、最小構成の 50user 版で対応可能です。

一方【1】C は送信先 SMTP と同名ドメインを登録して運用する構成です。このとき送信元アカウント数だけでなく、送信先アカウント数も合計して計算する必要があります。これは送信先 SMTP と E-Post SMTP Server に登録するドメインが同名ドメインなので、内部ドメインとして扱うからです。仮に送信元アカウントが 1 つでも、送信先 SMTP に 150 メールアドレスがある場合、同名ドメインとして登録して運用することになりますので、ライセンス対象となるアカウント数は 151 となるため、250user 版が必要になります。

※以下のフローチャート・表に記しているドメイン名 example.jp はあなたの管理するドメインに置き換えて読んでください。

・【1】送信専用 SMTP サーバ（一方向・配送のみ）のフローチャートを示します。



・【1】送信専用 SMTP サーバ（一方向・配送のみ） 構成要件を A,B,C の3つに分類した構成図を示します。それぞれの構成時に必要なライセンスの考え方を示しました。【1】A も【1】B も送信元アカウントは Account Manager 内の登録数で数えます。メーリングリストやエイリアス設定を登録した場合はそれらもカウントされます。【1】C については FAQ 記事を参照してください。

	基本構成パターン例	簡略構成図例	ライセンスの考え方
1A	送信専用 SMTP サーバ (ドメイン名登録)		送信元アカウント数 ≤ ライセンス (最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...)
1B	リレー用 SMTP (送信先 SMTP とはサブドメインを含む別ドメインで管理)		送信元アカウント数 ≤ ライセンス (最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...)
1C	リレー用 SMTP (送信先 SMTP と同一ドメインで管理) FAQ 参照		送信元アカウント + 送信先アカウント数 ≤ ライセンス (最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...)

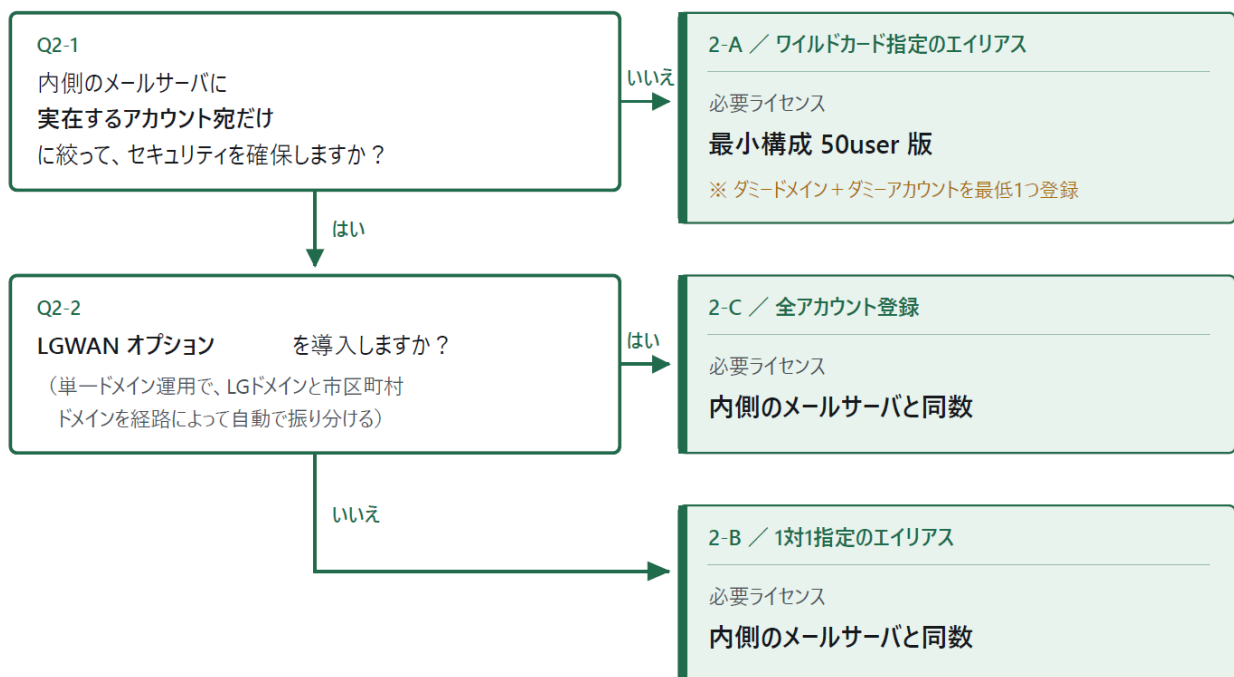
【2】 SMTP ゲートウェイ（双方向・インバウンド+ アウトバウンド）

インバウンド方向とアウトバウンド方向の双方向で SMTP ゲートウェイサーバとして構築するケースです。

【2】 A は、エイリアス設定でワイルドカード指定をする方法で、最小構成の 50user 版で対応可能です。

【2】 B および 【2】 C は、より明確に内側（イントラ側）で管理するメールアドレスに対して制御を行い、セキュリティを確保する方法です。それぞれエイリアス設定で 1 対 1 の指定をする方法、実アカウントで同数登録する方法で、こちらは内側（イントラ側）のメールサーバで管理するメールアドレスと同数分を満たすライセンスが必要です。例えば内側（イントラ側）のメールサーバが 350 メールアドレス分を管理していれば、SMTP ゲートウェイとして構成する E-Post SMTP Server (x64) には、500user 版が必要です。なおこの 【2】 B と 【2】 C との違いは、LGWAN option 導入の是非に関係します。SMTP ゲートウェイサーバに仕立てる E-Post SMTP Server (x64) にプラスして、LGWAN option 導入を行う場合は、【2】 C で設定する必要があります。

・【2】 SMTP ゲートウェイ（双方向・インバウンド+ アウトバウンド）のフローチャートを示します。



・【2】SMTP ゲートウェイ（双方向・インバウンド+アウトバウンド）構成要件を A,B,C の3つに分類した構成図を示します。それぞれの構成時に必要なライセンスの考え方を示しました。SMTP ゲートウェイの設定方法についての詳細はリンク先の『SMTP ゲートウェイ設定と応用』および FAQ 記事を参照してください。
※以下の表に記しているドメイン名 example.jp はあなたの管理するドメインに置き換えて読んでください。

	基本構成パターン例	簡略構成図例	ライセンスの考え方
2A	SMTP ゲートウェイ （ワイルドカード指定によるエイリアス設定） ドキュメント参照 FAQ 参照	<pre> graph TD Internet[インターネット] <--> SMTP[E-Post SMTP Server (x64) ワイルドカード指定によるエイリアス設定] SMTP <--> Mail[E-Post Mail Server 等 メールサーバ example.jp] Mail <--> Clients[クライアント] subgraph Options EnterpriseII[Enterprise II] SecureHandler[Secure Handler] end style Options stroke-dasharray: 5 5 style Options fill:none,stroke:none </pre>	最小構成ライセンス （50user 版） ※ただしダミードメイン・ダミーアカウント最低 1 つは登録必要
2B	SMTP ゲートウェイ （1 対 1 指定によるエイリアス設定） ドキュメント参照 FAQ 参照	<pre> graph TD Internet[インターネット] <--> SMTP[E-Post SMTP Server (x64) 1対1指定によるエイリアス設定] SMTP <--> Mail[E-Post Mail Server 等 メールサーバ example.jp] Mail <--> Clients[クライアント] subgraph Options EnterpriseII[Enterprise II] SecureHandler[Secure Handler] end style Options stroke-dasharray: 5 5 style Options fill:none,stroke:none </pre>	内側（イントラ側）のメールサーバと同数アカウント ≤ ライセンス （最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...）
2C	SMTP ゲートウェイ （全アカウント登録による設定） ※LGWAN option 導入時はこちらの設定が必須 ドキュメント参照 FAQ 参照	<pre> graph TD Internet[インターネット] <--> SMTP[E-Post SMTP Server (x64) 全アカウント登録 example.jp] SMTP <--> Mail[E-Post Mail Server 等 メールサーバ example.jp] Mail <--> Clients[クライアント] subgraph Options EnterpriseII[Enterprise II] SecureHandler[Secure Handler] LGWAN[LGWAN option] end style Options stroke-dasharray: 5 5 style Options fill:none,stroke:none </pre>	内側（イントラ側）のメールサーバと同数アカウント ≤ ライセンス （最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...）

【3】 認証付き SMTP リレー（認証付きフォワード）

モダン認証（先進認証）付きリレー（セキュアリレー）を含む「認証付き SMTP リレー」のケースです。これは E-Post SMTP Server (x64) が SMTP サーバとして動作するだけでなく、上位（外部）SMTP サーバに対する SMTP クライアントとしても動作し、認証を行い上位 SMTP その後の配送処理を依頼する構成です。

【3】 A は「レガシー認証」あるいは「基本認証」とも呼ばれ、旧来からある SMTP 認証付きリレーの方法です。上位（外部）SMTP と同名のドメインを E-Post SMTP Server (x64) に登録、認証付き SMTP リレーを行います。ライセンス数はリレー先 SMTP のメールアドレスと同数アカウントを満たす必要があります。リレー先 SMTP と同数という考え方は【1】 C に通じるところがあります。

【3】 B は Microsoft 365（以下 M365）側にコネクタを設置、コネクタ接続による SMTP リレーの方法です。設定難易度は後出の C や D より平易です。E-Post SMTP Server (x64) から外に出る IP は固定 IP であること、DNS 逆引き可能であることが必要です。こちらも E-Post 送信元を経由するアカウントと同数、つまり送信元アカウントがライセンス数を満たせばよいです。

【3】 C は「モダン認証（OAuth2.0）」あるいは旧来の基本認証に対する「先進認証」とも呼ばれ、M365 や Gmail 等で導入されているモダン認証（OAuth2.0）[先進認証] 付きリレーのケースです。設置する証明書には期限があり定期的な更新が必要です。E-Post 送信元を経由するアカウントと同数、つまり送信元アカウントがライセンス数を満たせばよいです。

【3】 D は M365 や Gmail 等モダン認証（OAuth2.0）[先進認証] の認証共有によるリレーの方法です。これは前出 C の方法をベースにさらに OAuth2.0 認証共有設定による拡張設定を行います。設置する証明書には期限があり定期的な更新が必要です。こちらも E-Post 送信元を経由するアカウントと同数、つまり送信元アカウントがライセンス数を満たせばよいです。

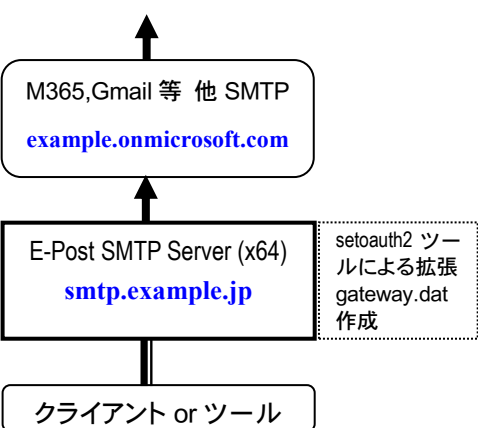
・【3】 認証付き SMTP リレー（認証付きフォワード）のフローチャートを示します。



・【3】 認証付き SMTP リレー（認証付きフォワード） 構成要件を A,B,C,D の 4 つに分類した構成図を示します。それぞれの構成時に必要なライセンスの考え方を示しました。詳細はリンク先の公開ダウンロードおよび FAQ 記事を参照してください。

※以下の表に記しているドメイン名 example.jp はあなたの管理するドメインに置き換えて読んでください。

	基本構成パターン例	簡略構成図例	ライセンスの考え方
3A	SMTP 認証付きリレー（認証付きフォワード） ※「レガシー認証」とも呼ばれます。 FAQ 参照	<pre> graph BT Client[クライアント or ツール] --> Server[E-Post SMTP Server (x64) example.jp] Server --> OtherSMTP[他 SMTP example.jp] </pre>	リレー先（フォワード先）SMTP と同数アカウント ≤ ライセンス （最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...）
3B	M365 側コネクタ接続による SMTP リレー（フォワード） ※設定難易度は 3C,3D より平易です。M365 側に「コネクタ」設置が必要です。E-Post SMTP Server から外に出る IP は固定 IP であること、DNS 逆引き可能であることが必要です。 公開ダウンロード FAQ 参照	<pre> graph BT Client[クライアント or ツール] --> Server[E-Post SMTP Server (x64) smtp.example.jp] Server -- "コネクタ設置" --> OtherSMTP[M365 等他 SMTP example.onmicrosoft.com] Server --- Gateway[拡張 gateway.dat 作成] </pre>	送信元アカウント（E-Post 送信元を経由するアカウントと同数）≤ ライセンス （最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...） ※M365 側全アカウントではありません。
3C	M365,Gmail 等モダン認証[先進認証](OAuth2.0)付きリレー ※「モダン認証」は「先進認証」とも呼ばれます。設置する証明書に期限があり定期的な更新が必要です。 公開ダウンロード FAQ 参照	<pre> graph BT Client[クライアント or ツール] --> Server[E-Post SMTP Server (x64) smtp.example.jp] Server -- "setoauth2 ツールによる拡張 gateway.dat 作成" --> OtherSMTP[M365,Gmail 等他 SMTP example.onmicrosoft.com] </pre>	送信元アカウント（E-Post 送信元を経由するアカウントと同数）≤ ライセンス （最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...） ※M365,Gmail 側全アカウントではありません。

3D	M365,Gmail 等モダン認証[先進認証](OAuth2.0)認証共有によるリレー ※3C の「モダン認証」[先進認証]をベースにし、さらに OAuth2.0 認証共有による拡張設定方法です。設置する証明書に期限があり定期的な更新が必要です。 公開ダウンロード FAQ 参照	 <pre> graph BT Client[クライアント or ツール] --> Server[E-Post SMTP Server (x64) smtp.example.jp] Server --> External[M365,Gmail 等 他 SMTP example.onmicrosoft.com] </pre> setoauth2 ツールによる拡張 gateway.dat 作成	送信元アカウント(E-Post 送信元を経由するアカウントと同数) ≤ ライセンス (最小構成 50user 版 < 100user 版 < 250user 版 < 500user 版 < 1000user 版 ...) ※M365,Gmail 側全アカウントではありません。
-----------	--	---	--

株式会社イー・ポスト (2026.8.28)